

天沼中だより

令和3年12月24日

杉並区立天沼中学校

東京都杉並区本天沼 3-10-20

TEL 3390-0161



天沼中 HP の QR コードです。
不定期更新の天中日記が見
られます↑

「サンタクロースって本当にいるの？」～終業式の話から～

校長 松尾 了

今学期は多くの行事がありました。さまざまな行事や教育活動を行うにあたり、2学期当初は新型コロナウィルス対応のご心配をおかけしましたが、11月に入りコロナ感染症拡大がだいぶ落ち着いてきたようにも感じております。行事や教育活動を行う際に、保護者、PTA の皆様のご協力をいただけましたこと感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、本日の終業式で、私から生徒へ「サンタクロースって本当にいるの？」という話（詳細はお子さんにお聞きください）をしました。この話の中で、「お金で買えるアクセサリー、数字で比べやすい成績や評価、世間で認められているブランドなど『見てわかりやすい』もので、価値を計ろうとしてしまいがちですが、直接見ることができない、『心』や『想い』、『人との繋がり』といったものでしか捉えることができないものにこそ、本当の価値があるのかもしれません。」という話をしました。

今日、お子さんがご家庭に持ち帰る「通知表」は、まさに「見てわかりやすい」ものです。評価(A.B.C)や評定(5.4.3.2.1)を見て、その結果だけを褒めたり叱咤激励したりしてしまいそうだというお気持ちは分かりますが、例えば、評定が「3」の場合、お子さんが必死に頑張った結果の「3」に対して「がんばったんだ！他の人は認めなくても、あなたの頑張りは私が知っているよ！」と褒めるのか、「なんで『4』じゃないの！」と叱るのか、お子さんの印象は大きく異なると思います。

知らない者同士で初対面の場合には、見てわかりやすい指標である「肩書き」のような事柄でお互いを判断しがちではありますが、お互いの関わりが深くなってくると意欲、能力、雰囲気など「その人自身が身に付けている事柄」でお互いを判断するようになります。

私の持論ではありますが、お子さんが社会人となるころには、さらにグローバル化が進み、さらなる多様な価値観を当たり前に認めることができる社会になっていると推察しています。その背景には、「肩書き」ではなく、「中身の価値」を認めていくとする世界的な意識変革があるのではないかと、私なりに考えています。

冬休みは、夏休みと比べると約3週間という短めな休みですが、年末年始ということもあり、今年1年間の反省、来年の目標など、「見えない」ことをじっくり考えるには良い機会となります。3年生は進路への取組みがある中で、お子さんもプレッシャーがかかりやすくなるかとは思いますが、お子さんと「心」や「想い」、「どんな気持ちや目標をもって新年を迎えるか」などについて改めて語り合っていただき、3学期へと繋げていただけますと幸いです。有意義な冬休みを過ごした、元気な生徒とあえることを楽しみにしています。

今年1年、学校へのご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。来年もどうぞ、よろしくお願ひいたします。

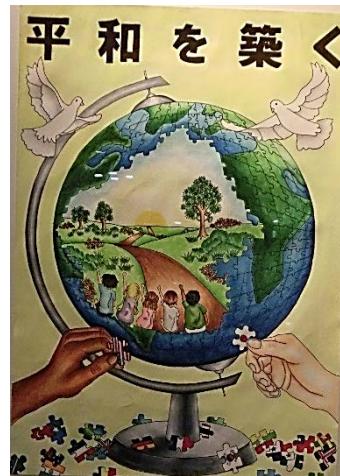


コロナ禍は続いておりますが、昨年度に比べ、行事以外にも生徒が自身の能力を発揮できる場が少しずつ戻ってきた2学期でした。終業式で表彰のあった生徒や生徒の活躍を紹介します。

平和のためのポスター

金賞

銅賞



↑雨谷さんの作品

←青木さんの作品

荻窪間税会入選

「消費税 皆で支える日本の未来」

いのちの教育読書感想文コンクール

学校代表

杉並サイエンスグランプリ 2021 研究記録物

努力賞

「氷を長持ちさせるには」
「なぜ『酸味』といえば『黄色』のイメージなのか」
「色による温度の変化について」
「環境に優しいプラスチック」



「瘦せ蛙負けるな一茶これにあり」の俳句で有名な炎天寺の奉納蛙すもう

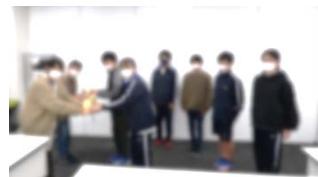
炎天寺一茶まつい全国小中学生俳句大会

秀逸

入選

「月涼し人の心もすき通る」
「好きだって言った瞬間花火咲く」
「山の中螢の後をついていく」
「帰り道かすかに香る桐の花」
「絶対になにかがおこる夏合宿」
「思い出す君の横顔桜桃忌」
「将来の僕の職業茄子農家」
「でこぼこと君の感情レモンだな」

↑上段は生徒会役員による校内「赤い羽根共同募金」活動と、すぎなみ社会福祉協議会に募金をお届けに行ったときの写真



歳末たすけあい募金参加ボランティア

10月、「赤い羽根共同募金」は台風接近のため中止になりました。それなら、と生徒会役員会では校内だけで3日間、募金活動を実施してくれました。

12月8日、今度こそ、と生徒会の呼びかけに応じた18人の地域ボランティアの生徒が荻窪駅頭で募金活動を行いました。道行く人が協力してくださることがうれしく、だんだんに大きな明るい声で呼びかけができるようになりました。先生方と一緒に学校支援本部の方も引率してくださいました。



杉並区人権作文集学校代表作品

「アイヌ民族を理解するために」
「性別に差はない」
「障害者だって一人の家族」
(東京都大会へ 次ページに掲載)



北海道白老町にウポポイ（民族共生象徴空間）が昨年開業し話題となった。私はウポポイの前身ともいえるアイヌ民族博物館を小学4年の夏休みに訪れた時に初めて、アイヌという民族がいるということを知った。博物館ではアイヌの人からムックリという楽器の演奏を教わったり、アイヌ舞踊を鑑賞したりして、その独特で美しい文化に魅せられた。博物館で働く人々は仕事が終わると民族衣装から洋服に着替えて私たちと同じような生活をするのだと聞き驚いた。成長の証である髪型やイレズミの風習も今はないという。なぜアイヌの人たちが元々の生活をしなくなったのかを不思議に思い調べてみた。

アイヌに関する本を図書館で探したところ、多くが保存庫にしまわれていて愕然とした。そして調べるうちに、北海道などの先住民であるアイヌが和人に迫害されてきた歴史を知った。江戸時代に松前藩に不当に支配されていたこと。明治政府に土地を奪われ、狩猟や漁を禁止され、日本語を使うなど同化政策に苦しめられたこと。貝が採れる地域の人は貝澤さん、などと和人風に改名させられ戸籍上「旧土人」として和人と区別されたこと。不平等で差別的な北海道旧土人保護法が撤廃されたのが今からたった24年前ということも驚いた。私はアイヌ民族博物館を訪れる前後に松前藩で無邪気に記念スタンプを押し、札幌では「明治政府が未開の地・北海道を開拓した」という趣旨の展示を見ていたのでショックだった。一方の視点で語られる歴史や主張だけを鵜呑みにせず、多角的に見る必要があると気付かされた。

同化政策により生活の基盤や独自の文化を奪われたアイヌの人々の多くは貧困に喘ぎ、「あ、イヌだ。」などと差別的な言葉を言われ、アイヌを理由に結婚や就職を断られることもあるという。平成29年の「北海道アイヌ生活実態調査」では、「生活がとても苦しい」と回答した人が約3割、「差別を受けたことがある」と回答した人が約2割と、今なお経済格差や差別がある。自分が受けたような差別を子どもに味わせたくないとの思いからアイヌであることを子どもに教えない親もいるため、文化の継承も難しくなっているそうだ。自分のルーツやアイデンティティを公表できず、家族にすら打ち明けられないのはどんなに悲しいことだろう。私たちはアイヌの人々が民族の誇りも奪われてしまったことを理解しなければならない。

東京に暮らす私は身近でアイヌの人と出会わないが、もししかしたらアイヌと公表していない人や自覚していない人もいるのかもしれない。もし出会ったら私は差別どころか積極的に交流してみたい。読書好きの父や帰国子女である母の影響で私は異文化に抵抗がなく、むしろ様々な人と仲良くするよう教えられてきた。母が転校などで苦労した話を聞いてるので、私も日頃から困っている人がいれば手を差し伸べることを心掛けている。生まれもって差別的な人間などいないはずだ。では、なぜ差別が起きるのか。メディアで差別的な表現を見たりすることの他に、差別感情を持つ親に「あの子はアイヌだから付き合うな」などと言われることも原因かもしれない。しかし私たちの世代はインターネットで世界中のあらゆる民族や思想を入手でき、街には外国語や点字の表記が当たり前にある時代に生れたので、「自分と何かが違う人」に対する抵抗が少ないと思う。そして少なくとも私は親から差別的な発言を聞いたことがない。それゆえ私たち世代からは差別をなくすことができる信じている。以前は当たり前に使われていた差別用語が時代とともに規制されるようになったのもよい傾向だと思う。自分が無意識に使っている言葉が、相手を傷つけることのないよう、自分が使われたくない言葉は使わないように気をつけたい。

近年は多様性が叫ばれている。外国人やアイヌ等にルーツをもつ人、障害や病気をもつ人やLGBTQ等違いを尊重し合う時代である。今こそ長らく続いたアイヌへの差別をなくすチャンスだと思う。アイヌの人がアイヌとして生き、もし望めば「自分はアイヌです」と安心して名乗れるような社会にしていかなければならない。私はそのために様々な違いをもった人の立場や思いを想像し、その人の習慣や文化を尊重していきたい。

アイヌ文化はとても魅力的だ。アイヌはこの世のすべてに魂が宿ると考え、動物や植物や道具など人間に恵みを与えてくれるものを持ムイと呼んで敬う。山でキノコを採取するときはキノコの神様へ感謝の挨拶をし、使えなくなった道具を捨てる時はその魂を送るお礼の儀式を行う。そのようなアイヌの価値観から私たちが学ぶことは多いと思う。

日本は単一民族国家ではない。私たちは外国語や外国文化に理解に努めることと同様にそれ以上に、日本の先住民族の一つであるアイヌのことをもっと知るべきだと思う。



第22回杉並区中学校対抗駅伝大会 12. 12(日) @済美山運動場



チーム全員、元気に全力を出すことができました。応援人数は制限されていましたが、YouTubeでたくさんの生徒や保護者の方が応援してくださいました。また、学校で友達が書いてくれた寄せ書き、美術科の大塚先生デザインの新しいユニフォーム(PTA寄贈)に力をもらい、たすきをつなぐことができました。選手の皆さん、お疲れ様でした。

メンバーは前号でお知らせしたとおりです。走者以外のメンバーのサポートあっての完走ですが、実際に当日走ったメンバーを紹介します。初出場の1年生ががんばってくれました。

生徒会主催 「もったいない大作戦」 3R (Reuse Reduce Recycle)

各常任委員会で方針を話し合ってくれました。家庭でも「もったいない」精神を大切にしましょう。



- | | |
|---------|---------------------------------------|
| 生徒会役員会 | “校内に3Rプロジェクトを浸透させる”(常任委員会をバックアップする) |
| 1年学級委員会 | “残飯を減らす” |
| 2年学級委員会 | “ムダな〇〇をなくします”(衣服での温度調節などでエネルギー節約) |
| 3年学級委員会 | “資源を無駄なく使う”(プリントの裏を活用する) |
| 保健委員会 | “水を出しつばなしにしない” |
| 整美委員会 | “ゴミを減らす” |
| 給食委員会 | “食品ロスの削減”(ストロー一袋を落とさない。栄養についての放送をする。) |
| 規律委員会 | “紙の再利用、節電を呼び掛ける” |
| 報道委員会 | “暁の放送で呼びかける “一できることを呼び掛ける、紹介する。” |
| 図書委員会 | “捨てられる本をなくし、大切に扱う” |

保護者の皆様へ

冬休みのお願い

別途、下記のプリントを昨日と本日で配布しております。

- 区立学校における冬季休業中の感染対策の徹底について (12/23配布)

——休日、コロナ関係の連絡先等が記載してあります。万が一児童・生徒、同居のご家族が感染した場合、あるいは濃厚接触者となった場合には、冬季休業中は学校閉庁日(12/29木)～1/3(月)を除き、すぐに学校へご連絡ください。

- Windows アップデートについて (12/24配布)

——Windows アップデートは操作としては難しいものではありませんが、ご家庭のご協力もお願いいたします。プリントをよくお読みください。なお、GIGAタブレットについての「紛失」「破損」については 12/29～1/3 以外の日に学校まで必ずご連絡ください。また、不具合については、1月7日のICT支援員在校日にご連絡のうえ、ご相談ください。

3学年保育実習(家庭科)12月

昨年度は実施できなかった保育実習を、お隣のテンダーラビング保育園様のご協力で実施することができました。3年生の素敵な笑顔がたくさん見られました。「自分は案外子どもに好かれるんだな」「自分にもこんな頃があったんだ」と、さまざまな気付きのある体験でした。



天中CSコーナー

天沼中学校”生活と学び“調査協力のお願い

本日配布したCSによる調査、始業式(1/11)に、封筒を2通お子さんに持たせてください。朝、生徒玄関にてCS委員が回収いたします。ご協力ををお願いいたします。

※ 次回CS協議会は1月12日
14:30～16:30 会議室にて開催されます。傍聴ご希望の方は、副校長までご連絡ください。

